

2025

SUN
11/30

9:50~
(9:30開場)

WDMiT Webサイト



<https://www.wdmit.com>

第6回

WINTER DENTAL MEETING IN TSU

ウィンターデンタルミーティング in 津

主催：Winter Dental Meeting in 津 実行委員会

会場：津リージョンプラザ3F お城ホール

WDM in Tsu



WDMiT事務局 三重大学医学部附属病院歯科口腔外科

Mail: info@wdmit.com TEL: 059-232-1111 (内線5635)

第6回

Winter Dental Meeting in Tsu ウィンターデンタルミーティング in 津

— 開催のご挨拶 —

2020年からスタートしたWinter Dental Meeting in Tsuもおかげさまで第6回の開催を迎える運びとなりました。新型コロナウイルスによるパンデミック渦中での第1回開催から早くも5年経ち、改めて時の流れの速さを実感いたします。日常でマスクをしている人はほとんどいなくなり、いろんな所でパンデミック以前のライフスタイルに戻りつつあります。一方で、この5年の間にウクライナやガザ地区などから数多くの痛ましいニュースが流れてきました。世界中に早く平和が訪れることを願ってやみません。

日本でも、連日多くのニュースが流れていますが、その中の一つの気候変動に関するニュースが昔と比べて明らかに増えています。集中豪雨や気温上昇による自然災害のニュースが後を絶たず、地球温暖化が原因であることは何となく理解していながらも、詳しい事象は理解できていないのが実情です。今回の特別講演では、三重大学大学院教授の立花義裕先生に「異常気象の未来予測—温暖化が日本狙い撃ち!なぜ?—」というテーマで、ご講演頂きます。気候変動について、わかりやすく講演していただき、原因を知ること出来る対策を考えてみたいと思います。

また、教育講演では、東京科学大学名誉教授・宝塚医療大学教授の荒川真一先生に「これからの歯科衛生士に求められる“Plus α”—歯科衛生士として輝くために—」というタイトルで、今後の歯科衛生士に何が求められるかについてお話しいたします。今後の歯科医療において、歯科衛生士に求められる役割は益々増えていくことは間違いありません。歯科医療関係者がそれぞれの役割をよく理解し、お互いの立場を尊重して働いていくためにぜひ聞いて頂きたい内容だと思います。

今年も多くの演題の応募を頂き、ありがとうございます。非常に興味深いタイトルが数多く見受けられ、当日の発表を楽しみにしております。Winter Dental Meeting in Tsuに参加された皆様に参加してよかったと思える内容になるように実行委員会も鋭意努力しています。ぜひとも多くの方々の参加をお待ちしています。今回は津リージョンプラザでの開催となります。皆様にお会いできることを楽しみにしております。

ウィンターデンタルミーティング in 津
実行委員会 委員
第6回大会長 藤田 剛

特別講演【13:00～14:00】

異常気象の未来予測 —温暖化が日本狙い撃ち!なぜ?—

三重大学大学院 生物資源学研究科地球環境学講座
気象・気候ダイナミクス研究室 教授

立花 義裕 先生

「羽鳥慎一モーニングショー」や「タモリステーション」をはじめニュース番組等に多数出演し、異常気象の解説や気候危機についてマスメディアで精力的に発言。分かりやすい解説に定評がある。札幌南高校卒。ワシントン大学等を経て現職。東海テレビ文化賞受賞。小学生の時に雪の少ない地域や豪雪地域への引っ越しを経験して気象に興味を持つ。2008年より現職。日本気象学会理事、日本雪氷学会理事。

講演内容 -----

今年7月上旬に上梓した拙著『異常気象の未来予測』(ポプラ新書)において、世界は地球温暖化による“アナザーワールド”の入り口に来ていると書いた。アナザーワールドとは、例えば「日本の夏の気温が、40度が当たり前の世界」のこと。この夏、「40度の夏」という私の未来予測が、すでに現実となってしまった。日本は極暑に襲われ、夏の平均気温が観測史上最高となった。原因は、CO₂の増加に伴う地球温暖化である。地球温暖化は、全世界で「公平」に温度が上がる現象ではない。ここ数年続く猛暑は、日本が世界で最も深刻だ。なぜ日本を「狙い撃ち」するのか?今年の夏の暑さの原因を理解すれば、未来の日本の気候も見えてくる。40度越えが当たり前の日本を望む人はいないだろう。だからこそ、CO₂削減は待ったなしなのだ。

日本では、熱中症で命を落とす人数は、近年はほぼ毎年1,000人を越えている。2024年は、2,000人に達したとの報告もある。温暖化が進めば、1万人に届くのは時間の問題かもしれない。熱中症が死亡の主因の一つとなる時代が近い。猛暑は、人の寿命を縮めるという研究もある。人の命を守りたいから、医歯薬系の学問を志す若者は、昔も今も多い。同様に、人類を守るためにも、もっともっと気象学や気候科学を学んで欲しい。

本講演が、歯科衛生士を目指す皆さんにとって、誇りをもって最大限にチャレンジしていただく一助になれば幸いです。

教育講演【14:50～15:50】

これからの歯科衛生士に求められる“Plus α” —歯科衛生士として輝くために—

宝塚医療大学保健医療学部 口腔保健学科 教授
東京科学大学 名誉教授

荒川 真一 先生

昭和61年東京医科歯科大学歯学部卒業、平成2年歯学博士号取得、荒川歯科医院院長、平成4年テキサス大学ヘルスサイエンスセンター、平成5年ニューヨーク州立大学バッファロー校、平成6年東京医科歯科大学歯学部歯科保存第二講座(歯周病学)医員、平成10年同講座助手、平成24年東京医科歯科大学大学院生涯口腔保健衛生学分野教授、平成28年同大学歯学部口腔保健学科学科長、令和6年より現職。日本歯科衛生士教育協議会理事(～令和5年)、日本歯周病学会常任理事(～令和7年)。

講演内容 -----

歯科衛生士は3大業務の一つ「歯科診療の補助」として相対的歯科医行為を行っています。一方、海外に目を向けてみるとダイレクト・アクセス(歯科衛生士単独の処置・治療)が54%の国で認められており、特にアメリカにおいては多くの州で浸潤麻酔やエックス線撮影が認められています。

副題にあります、歯科衛生士として輝くために、日本歯周病学会(JSP)認定歯科衛生士の資格を取得することも一つの選択だと思います。JSP 歯科衛生士関連委員会の委員長であった経験から、申請や審査において散見される保留(要修正)、不合格となる点などについて具体例を示しながら説明したいと思います。また、歯科衛生士による浸潤麻酔が話題になっていますが、厚生労働省の歯科衛生士の業務のあり方等に関する検討会、令和7年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金【歯科衛生士による浸潤麻酔行為の教育カリキュラム作成のための研究】に参画しているので、この点についても言及する予定です。また、時間があれば、SaMDの歯科への応用についても紹介したいと思います。



■ 開会

■ 一般演題

▶9:50～ 開会の挨拶(藤田 剛)

▶10:00～10:30 【座長:福森 哲也】

1 頬部蜂窩織炎に続発した脳膿瘍の1例

桑名市総合医療センター 歯科口腔外科

○渡部 勇介、佐竹 真実、佐竹 貴仁、古島 夏子、加藤 英治

蜂窩織炎は皮下組織における急性細菌感染症であり、重篤な合併症を引き起こすことがある。中でも脳膿瘍の発症は極めてまれであり、その病態の進展や治療経過についての報告は限られている。今回我々は、右下顎智歯周囲炎を原因とする頬部蜂窩織炎の治療中に脳膿瘍を発症した1例を経験したので報告する。

2 当科における白板症および口腔扁平苔癬に関する臨床的検討

伊勢赤十字病院 歯科口腔外科

○下社 涼佑、宮崎 優里、中村 真之介

当科における白板症および口腔扁平苔癬の癌化率を検討し、口腔潜在的悪性疾患のリスク評価に資することを目的とした。症例解析の結果、白板症の症例数が47例で癌化率は4.3%、口腔扁平苔癬の症例数が152例で癌化率は0.7%であった。また、臨床視診型、発生部位、喫煙歴、性差についての検討を行った。

3 三重病院歯科口腔外科12年の歩みと課題

三重病院 歯科口腔外科

○松村 佳彦、金城 優、山本 葉月、堀 琴雅

三重病院歯科口腔外科は「専門性の確立」「地域とのネットワーク強化」など基盤を推進し、三重大学病院をはじめとする医療機関との紹介ルートの整備も行なってきた。そのため地域歯科医院からの紹介患者は増加し、中核病院として機能をはたしている。三重病院の小児医療に対する特殊性と歯科医療の連携を含め、今後の課題について検討した。

▶10:40～11:10 【座長:佐藤 忠】

4 口腔内出血を契機に診断された特発性血小板減少性紫斑病の1例

三重中央医療センター 歯科・歯科口腔外科

○若林 宏紀、加納 慶子、柳瀬 成章

特発性血小板減少性紫斑病(ITP)は、血小板減少により種々の出血症状を呈する後天性疾患である。今回、口腔内出血を契機にITPと診断された1例を経験したので報告する。患者は87歳、男性。血小板数は500/ μ Lと著しく低下していた。他院血液内科にて診断後、免疫グロブリン大量療法、血小板輸血、副腎皮質ステロイド療法が行われ、口腔内出血は改善した。

5 顎骨のCTを用いた骨粗鬆症診断法の開発に関する予備的研究(第2報)

紀南病院 歯科口腔外科¹⁾

三重大学大学院医学系研究科 口腔・顎顔面外科学分野²⁾

○堀 晃二¹⁾²⁾、新井 直也²⁾

骨粗鬆症患者は国内に1,200万人以上いると推計されている。自覚症状に乏しい慢性疾患であることから検査率や治療率は未だに低く、要介護の大きな要因となっている。本研究では、CT画像を用いて骨粗鬆症患者と健常者の顎骨を比較し、骨粗鬆症の診断につながる骨構造の変化を見つけることを目的とした。

■ 一般演題

■ 一般演題

■ 特別講演

6 開窓牽引とマウスピース矯正で対応した両側上顎埋伏犬歯の1例
-長期間の治療を要した症例-

(医)上津デンタルクリニック

○田中 覚

2003年の開業後まもなく、両側の上顎埋伏犬歯に対して開窓牽引術を行った。牽引後にマウスピース矯正を行い、治療に長期間を要した思い出深い症例であることから、今回その経過を報告させていただく。

▶11:20～12:00 【座長:鈴木 晶博】

7 金属歯冠修復物にできる皺襞の検討

戸田歯科医院

○戸田 喜之

金属歯冠修復物にできる皺襞を、口腔内写真を整理している時に偶然発見した。注意して観察してみると、かなりの頻度で存在する事に気がついた。皺襞の成因、出現から徐々に変化していく過程、出現部位等を報告する。

8 歯根破折歯に対し自家歯牙移植により咬合回復を行った症例

(医)中嶋歯科医院

○中嶋 正明

歯根破折により保存不可能と診断された上顎第2大臼歯に対し、同側の第3大臼歯を用いて自家歯牙移植を行い、咬合機能の回復を図った症例を報告する。術後は良好な治癒が得られ、移植歯は安定した予後を示した。自家歯牙移植は、適切なドナー歯の選択と術式により、有効な治療選択肢となり得る。

9 広汎型重度慢性歯周炎患者にリグロス®とサイトランス®を併用した
歯周組織再生療法を行った1症例

(医)林歯科医院

○林 尚史、濱口 桂、森田 寛

初診:2017年8月、47歳男性。主訴:歯ぐきから血が出る。2年以上他院で歯周病の治療中。喫煙歴:25年以上(20本/日)。口腔内所見:平均PPDは3.6mm(4-5mmが27.2%、6mm以上が15.4%)、BOPは55.6%、PCRは56.5%。StageIII Grade C。今回、深い垂直性骨欠損に対してリグロス®とサイトランス®を用いた歯周組織再生療法を行い、大きなゲインがあり予想より良好な結果を得たので報告する。

10 プロファイルを重視した矯正治療計画

田所歯科矯正歯科クリニック

○田所 晋

一般に矯正治療計画の立案に際しては、各種診断資料の精査と分析を基盤とし、抜歯の要否、アンカレッジ方針、歯の移動様式等を総合的に決定した上で治療目標を設定することが求められる。本発表においては、特にプロファイルを重視した治療計画立案の意義について論じる。

▶13:00～14:00 【座長:新井 直也】

異常気象の未来予測-温暖化が日本狙い撃ち!なぜ?-

講演者

三重大学大学院 生物資源学研究科地球環境学講座
気象・気候ダイナミクス研究室 教授
立花 義裕 先生

11 改変型パラタルアーチを用いた缺状咬合改善の1例

伊勢保健衛生専門学校 歯科衛生学科¹⁾
田所歯科矯正歯科クリニック²⁾
○上野 莉沙¹⁾²⁾、田所 晋²⁾、島田 裕子¹⁾

缺状咬合は咬合異常の一形態であり、咬合機能の破綻や顎偏位の要因となりうる機能的影響を有する不正咬合である。今回われわれは、改変型パラタルアーチを用いて缺状咬合の改善を図り、良好な結果を得た1例を報告する。

12 歯ブラシの種類によって1ストローク後の汚れの付着量は違うのか

ユマニテク医療福祉大学校 歯科衛生学科
○柴田 真知、岡本 真奈、木村 佳乃、高木 芽生、
仲宗根 萌依、二三味 梨湖、堂坂 千夏、北川 順子

近年、歯ブラシの形態や機能が多様化している。本研究ではアンケートにより歯科医院と薬局が推奨している歯ブラシを用い、1ストローク後の汚れの付着量を評価した。将来の歯科保健指導に活用することを視野に、学生の立場から考察を試みた。

これからの歯科衛生士に求められる“Plus α”
-歯科衛生士として輝くために-

講演者	宝塚医療大学保健医療学部 口腔保健学科 教授 東京科学大学 名誉教授 荒川 真一 先生
-----	---

13 歯科衛生士が関わる重症心身障害児(者)医療-安全性と再現性について-

愛知県医療療育総合センター中央病院 歯科部／
ユマニテク医療福祉大学校同窓会 若葉の会
○永坂 梨奈

日々、重症心身障害児(者)と関わる中で歯科衛生士としてできることは何かと考えたとき、“安全優先”な知識・技術の習得と介助者を意識した“再現性”の伝達ではないかと実感している。2つを実現するためにはアセスメント内容が重要であり、情報収集は生命線ではないだろうか。今回、症例とともにアセスメントポイントを踏まえ共有していく。

14 歯科衛生士としての歩み
-一般歯科医院、回復期・終末期病院、急性期病院での学び-

藤田医科大学病院 歯科口腔外科／三重県立公衆衛生学院同窓会 飛翔会
○田中 紘子

歯科衛生士養成校卒業後、歯科医院、回復期・終末期病院、急性期病院にて様々なことを経験し多くの学びを得た。口腔の管理のみならず、人の生活に寄り添い、健康を支えるのが歯科衛生士の仕事だと認識し、その難しさゆえ悩むこともある。今回は、一人の歯科衛生士として向き合ってきた困難、その解決策、そして歯科衛生士の魅力を伝えたい。

16 口腔と上下消化器の重複癌症例のマネージメント

済生会松阪総合病院 歯科口腔外科
○松田 未来、前川 礼子、梅田 みさき、野田 のりか、松田 未梨、
八原 千草、堀木 陽日、森川 はるな、鈴木 康昭、密田 正喜仁、大倉 正也

今回我々は、cT2N1M0ステージⅢ口底癌の術前検査時に重複癌を認め、医科と連携し口腔外科が先行し選択的頸部郭清術を含む外科治療を行った。この患者に対して歯科衛生士が口腔機能管理を行い、術後は多職種連携で患者に携わることで術後創部感染予防・機能障害の回復に努め早期退院を目指し、重複癌の治療へのバトンタッチが可能となった1例を報告する。

17 頬部皮膚冷却による口腔粘膜血流の抑制効果の検討

三重大学医学部附属病院 歯科口腔外科
○濱田 志、清水 香澄、伊藤 希、林 美歩、服部 理子、新井 直也

顔面の頬部皮膚を冷却したとき、口腔内の頬粘膜に血流の変化を生じるかを、健康成人10名を対象に検証した。10分間の冷却にて、平均血流量に変化はなかったが、終盤の30秒間に限ると血流の抑制が確認された。抗癌剤による粘膜炎予防法に氷片を口に含むクライオセラピーがあるが、口の動きが血流上昇を招く欠点があった。今回、顔面皮膚冷却法の可能性について報告する。

Please

- 発表者の方々へ
○発表形式:スライド単写、横スライドのみ、枚数制限なし。
○Microsoft office 365 PowerPoint を用います(発表に使用するPCはWindowsを使用します。Macの方は事前にWindowsでの動作確認をお願いします。)
○口演時間7分、質疑応答3分、6分経過時にベルを1回、7分でベルを2回鳴らします。質疑応答につきましても時間厳守でお願いいたします。
○本大会の抄録は三重医学会雑誌に掲載致します。三重医学会雑誌の投稿規定に沿う必要があるため、500字以内の抄録をこちらのメールアドレス(wdentalmeeting@gmail.com)まで送付してください。
○事後抄録は、演題番号、演題名、所属、氏名(筆頭演者に○印)、抄録内容をWordまたはテキストファイルにて記載してください。
- 座長の方々へ
○時間厳守をお願いします。10分前までに次座長席へお座り下さるよう、よろしくお願いします。

Floor Map

津リージョンプラザ3F お城ホール
近鉄名古屋線「津新町駅」下車 徒歩10分

